

みずほCustomer Desk Report 2018/08/13号(As of 2018/08/10)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	110.93
TKY 9:00AM	111.09	1.1524	128.02	1.2826	0.7373
SYD-NY High	111.16	1.1537	128.08	1.2838	0.7378
SYD-NY Low	110.51	1.1388	126.02	1.2723	0.7280
NY 5:00 PM	110.93	1.1408	126.52	1.2774	0.7293
NY DOW	25,313.14	▲ 196.09	日本2年債	-0.1200	▲ 1.00bp
NASDAQ	7,839.11	▲ 52.67	日本10年債	0.1000	▲ 1.00bp
S&P	2,833.28	▲ 20.30	米国2年債	2.6063	▲ 4.10bp
日経平均	22,298.08	▲ 300.31	米国5年債	2.7457	▲ 6.27bp
TOPIX	1,720.16	▲ 20.00	米国10年債	2.8723	▲ 5.62bp
シカゴ日経先物	22,185.00	▲ 390.00	独10年債	0.3175	▲ 5.55bp
ロンドンFT	7,667.01	▲ 74.76	英10年債	1.2425	▲ 5.30bp
DAX	12,424.35	▲ 251.76	豪10年債	2.6190	▲ 3.40bp
ハンセン指数	28,366.62	▲ 240.68	USDJPY 1M Vol	7.20	0.95%
上海総合	2,795.31	0.93	USDJPY 3M Vol	7.90	0.54%
NY金	1,219.00	▲ 0.90	USDJPY 6M Vol	8.05	0.40%
WTI	67.63	0.82	USDJPY 1M 25RR	-1.28	Yen Call Over
CRB指数	191.69	▲ 0.73	EURJPY 3M Vol	9.21	1.04%
ドルインデックス	96.36	0.85	EURJPY 6M Vol	9.37	0.88%

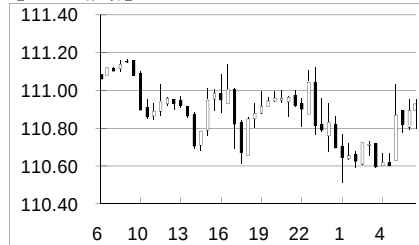
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
8月10日	08:50	日 GDP(季調済/前期比)・速報	2Q 0.5%	0.3%
	08:50	日 GDP(年率/季調済/前期比)・速報	2Q 1.9%	1.4%
	15:45	仏 鉱工業生産(前月比/前年比)	6月 0.6%/1.7%	0.5%/1.4%
	15:45	仏 製造業生産(前月比/前年比)	6月 0.6%/1.6%	0%/0.5%
	17:30	英 鉱工業生産(前月比/前年比)	6月 0.4%/1.1%	0.3%/0.7%
	17:30	英 製造業生産(前月比/前年比)	6月 0.4%/1.5%	0.3%/1%
	17:30	英 GDP(前期比/前年比)・速報	2Q 0.4%/1.3%	0.4%/1.3%
	17:30	英 個人消費(前期比)・速報	2Q 0.3%	0.4%
	21:30	米 CPI(前月比/前年比)	7月 0.2%/2.9%	0.2%/2.9%

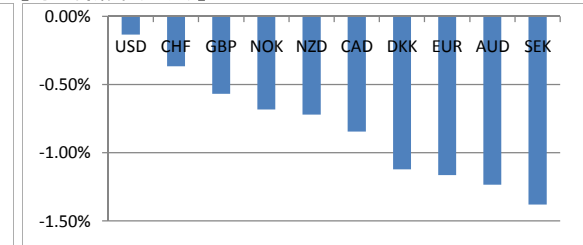
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月13日		特に無し		

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	110.00-111.50	1.1350-1.1500	125.50-127.00

【マーケットインプレッション】

前週金曜海外時間のドル円相場は、円買い優勢。米国人牧師の拘束を巡り、トルコと米国との関係悪化が懸念される中、米トランプ大統領が鉄鋼・アルミニウムの輸入制限に係る追加関税につき、トルコに対しては2倍へ引き上げることを選定したとコメントしたこと、トルコリラが急落、リスク資産に売り圧力がかかる中、円買い優勢の展開となり、110.83で越えた。本日のドル円相場も引き続き上値が重い展開が見込まれる。リラの動きが引き続きグローバルな動揺を誘うのか、他の新興国通貨へと波及するかが焦点となるが、一足飛びに解決する問題でもなく、動意薄の展開が見込まれる中、下落方向には留意の要。

アジア	オセアニア時間、ドル円は高値111.16を付ける場面も見られたが、ユーロ円が約1ヶ月半ぶりに128.00を割り込んだことからドル円は連れ安の展開となり、公示仲値の発表にかけて110.85まで下落。午後に入ってもユーロ円が軟調推移となる中、ドル円はじりじりと110.68まで続落。その後、ユーロドルが心理的な節目である1.1500を割り込むとストップを巻き込みながら約1年ぶりの水準である1.1432まで急落。日経平均株価は前日比300円超安となり、リスクオフの展開となるも、ユーロ売りドル買いの流れの中、ドル円は寧ろ111.08まで反発し、110.95レベルで海外に渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、110.95レベルでオープン、ドル指数が2017年7月以来の水準に上昇するなど、ドルは多通貨に対し買われたが、対円ではお盆休み前のポジション調整の動きに終始、オープンとほぼ同水準の110.93レベルでNYに渡った。ユーロドルは、1.1459レベルでオープン。トルコの借り手がリテラ下落をめぐり、外貨建て融資の不履行に陥り始めることをECBが懸念していると伝わったことから、ユーロドルは上値重いの展開。しかし本日、アルバイト・トルコ財務相が金融市場の懸念を払拭するために同国中期経済計画の大枠を発表することから1.14台半ばで下げ渋り、1.1466レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2793レベルでオープン。英国もトルコ資産保有率が高いことから1.2734まで下落、英第2四半期GDP速報値は、前期比+0.4%と予想と一致。引けにかけては、トルコのエルドアン大統領がリテラの下落を受け、国民に外貨建て預金の売却を訴えたが、殆ど反応は見られなかった。結局1.2777レベルでNYに渡った。(ロンドン・フリー 00531 444 179 山本)
ニューヨーク	海外市場では、対新興国通貨やユーロでドル買いが進行し、全面高の展開となったことから、ドル円は111.13まで上昇するが、リスクオフ地合の中、米10年債利回りが2.90%を割り込む動きにつれて110.61まで下落し、110.93レベルでNYオープン。朝方は米7月CPIがほぼ予想通りの内容となるもののドル円は111.12まで上昇。トランプ米大統領のSNSに「トルコに対し鋼鉄・アルミ関税の倍増を認可した」との報道を受け、米国・トルコの更なる関係悪化が懸念され、米金利・米株が下落する中、ドル円はストップを巻き込みながら110.51まで下落。その後、トランプ米大統領の弁護士であるセロー氏が「トルコの牧師拘束は解決に近づいている」とラジオ番組で発言したことを受け、111.03まで急伸し、110.93レベルでクロス。なお本曜日から開催されている日米通商協議(FFR)は終了し、9月を目処に次回合が開催されることが明らかになった。一方、海外市場のユーロドルは、心理的節目の1.1500を下抜け、1.1432をつけ1.1466レベルでNYオープン。NY早朝に英FT紙が「ECBがユーロ圏金融機関のトルコへのエクスポージャーを懸念している」と報道したことから、ほぼ一本調子で下落し、1.1400も下抜け、昨年7月13日以来13ヶ月ぶり安値となる1.1388まで下落し、1.1408レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:末木・田家